

AstraZeneca PLC 2014年第4四半期・通年業績

2015年2月5日 ロンドン発

2014年第3四半期の業績発表時に上方修正された当社のガイダンスに沿った財務業績

- 通年売上は恒常為替レート (CER)¹ ベースで 3% 増の 260 億 9,500 万ドル
 - 米国のブランド処方医薬品フィー算定変更により 1 億 1,300 万ドルの売上減；本影響を除いた売上は 4% 増
- 通年中核 1 株当たり利益 (EPS) は、成長基盤ならびにパイプライン加速への投資により、8% 減の 4.28 ドル
- 第 4 四半期売上は 2% 増の 66 億 8,300 万ドル：4 四半期連続の売上増
- 第 4 四半期中核 EPS は 28% 減の 0.76 ドル

成長基盤は 2014 年 15% 成長、総売上の 53% に寄与

- Brilinta：70% 増 - 全世界で継続的進捗
- 糖尿病：139% 増 - ブリストル・マイヤーズスクイブ (BMS) の資産統合の成功、力強いフォシーガの上市および米国における Bydureon Pen の順調な立ち上がり
- 呼吸器：10% 増 - 新興市場は 27% 成長、米国の成長は 15% に減速
- 新興市場：12% 増 - 中国は 22% 成長、中国がアストラゼネカの国別の第 2 の市場に
- 日本：3% 減 - 隔年の薬価改定、後発品使用増大および第 4 四半期のネキシウム回収による影響

2014年には過去最高の6製品の承認を取得

2014年第3四半期業績発表以降のパイプラインの進展：

- Duaklir Genuair：COPD（慢性閉塞性肺疾患）が欧州で承認。Brodalumab²：2 番目と 3 番目の乾癬を適応とする主要第 III 相試験において ustekinumab に対する優位性。Lesinurad：痛風治療薬としての申請が欧州で受理。
- Brilinta：PEGASUS 試験において主要評価項目を達成。Saxagliptin/dapagliflozin 固定用量配合剤：米国で申請。
- Lynparza：進行 BRCA 変異陽性卵巣がん治療薬として米国および欧州で承認。イレッサ：新薬承認申請受理。
- Movantik：オピオイド誘発性便秘治療薬として EU で承認。Movantik：米国麻薬取締局により規制薬物法による規制から除外

取締役会は 1 株当たり 1.90 ドルの第 2 回中間配当を発表し、通年の配当は 2.80 ドルとなりました。取締役会は引き続き累進的配当政策を堅持しています。

2015 年ガイダンス：当社の売上は CER ベースで 1 桁台半ばのパーセンテージで減少すると予想しています³。当社のビジネスモデルに基づき、当社はパートナーシップならびに製品および技術の選択的ライセンスによる社外提携による収入を引き続き検討します。中核 1 株当たり利益 (EPS) は CER ベースで 1 桁台前半のパーセンテージで増加すると予想されます。

2015年ニュースフロー

- **主要データ：**MEDI4736 サードライン 非小細胞肺癌；tremelimumab 中皮腫；selumetinib ぶどう膜メラノーマ；PT003 COPD
- **申請：**AZD9291 セカンドライン 非小細胞肺癌；cediranib 卵巣がん (EU)；brodalumab 乾癬
- **可能性のある承認決定：**saxagliptin/dapagliflozin 固定用量配合剤；イレッサ；lesinurad

¹ 別段の記載がない限りすべての成長率は CER ベースで表示

² Brodalumab はアムジェン社との共同開発

³ 米国市場での近日中のネキシウム後発品上市が前提

ファイナンシャルサマリー

グループ	第 4 四半期 2014 年 100 万ドル	前年 同期比 %	CER %	通年 2014 年 100 万ドル	前年 同期比 %	CER %
売上高	6,683	(2)	2	26,095	1	3
中核ベース**						
営業利益	1,184	(40)	(33)	6,937	(17)	(13)
1 株当たり利益	\$0.76	(38)	(28)	\$4.28	(15)	(8)
報告ベース						
営業利益	(349)	(41)	(59)	2,137	(42)	(31)
1 株当たり利益	(\$0.25)	(40)	(69)	\$0.98	(52)	(34)

** 中核財務指標の定義および中核ベースと報告ベースの財務指標の調整については、営業およびファイナンシャルレビューの 6 ページと 8 ページをご覧ください。

最高経営責任者パカル・ソリオの業績についてのコメント：

「2014 年はアストラゼネカにとって卓越した年でした。当社はすべての重点治療領域においてパイプラインを加速させ、過去最高となる 6 製品の承認を取得しました。これと並行して、4 四半期連続の売上成長を果たし、現在、成長基盤が総売上の過半数に貢献しています。当社の新興市場における強力な業績は特筆すべきものであり、中国は当社の国別の第 2 の市場に成長しました。一方、米国でのネキシウム後発品の参入遅延に助けられ、新製品発売および急速に進捗するパイプラインに対する投資を増強することができました。当社の 2015 年ガイダンスは、特許期間満了を迎えるにあたり収益を維持するために、引き続き生産性を改善する一方、新製品や充実したパイプラインへ投資することで価値を創造することに注力する当社の方針を反映しています。当社の豊富なサイエンスおよび組織全体で培った推進力をもって、当社は 2017 年までの成長の回復に向けて順調に推移しつつあるとともに、当社の長期目標を達成する体制も整備しました」。

研究開発の最新情報

当社研究開発パイプラインの総合的な最新情報は、2014 年第 4 四半期および通年業績発表と共に提供されており、本プレスリリースの最後に掲載しています。

2014 年 12 月 31 日現在、アストラゼネカのパイプラインは 133 件のプロジェクトを含み、そのうち 118 件は臨床開発の段階にあります。現在 13 件の新規分子化合物（NME）プロジェクトが後期開発段階にあり、主要試験実施中あるいは薬事申請の審査中です。2014 年には、ポートフォリオ全体で、50 件のプロジェクトが順調に次の段階に進みました。これには主要市場における 2 件の新発売と 4 件の最初の承認、ならびに 14 件の NME プロジェクトの進展が含まれます。さらに、21 件のプロジェクトにおいて最初のヒトでの試験が開始されました。9 件のプロジェクトが中止されました。

2014 年第 3 四半期業績発表以降、下記の領域で顕著な進捗が見られました。

シムビコート SYGMA 試験開始

2014 年第 4 四半期、アストラゼネカはシムビコート SYGMA 臨床プログラムに最初の患者を無作為に組み入れました。

喘息患者の 50%～75%は軽症喘息に罹患していますが、従来の治療レジメンによる治療では、喘息は依然としてコントロールが不安定な疾患です。軽症喘息患者の多くは、短時間作用性 β_2 刺激薬（SABA）リリーバーまたは「レスキュー」治療薬への依存過多、および、処方された抗炎症薬 1 日維持用量へのアドヒアランス不良などの理由で炎症治療が不十分です。これにより、症状増悪あるいは病勢進行リスクが増大します。

SYGMA プログラムは、必要に応じて投与される SABA レスキュー・インヘイラーとの比較で、必要に応じて投与されるシムビコート（ブデソニド・ホルモテロール）タービュヘイラーが、より良い喘息コントロールを達成できる可能性があるという仮説を検証します。加えて、SYGMA は必要に応じて投与されるシムビコートタービュヘイラーのより柔軟な用法用量と、必要に応じた固定用量レギュラーインヘイラーのステロイド・

SABA 配合剤との比較における有効性も検討します。

Duaklir Genuair の承認

2014 年 11 月 24 日、アストラゼネカは *Duaklir Genuair* (aclidinium bromide/formoterol fumarate 340/12mcg) が欧州委員会 (EC) より、成人慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の症状緩和を適応とする維持療法気管支拡張薬として販売承認を取得したと発表しました。

世界中で約 3 億人が COPD に罹患しています。COPD は進行性慢性疾患で、気流制限による呼吸困難を伴います。肺機能の改善と息切れなどの日常的な症状の低減が COPD の管理において重要です。

Duaklir は既承認の長時間作用性ムスカリン拮抗薬 (LAMA) である *Eklira* (aclidinium bromide) と、長時間作用性 β 刺激薬 (LABA) であるホルモテロールの固定用量配合剤です。この 1 日 2 回療法は、個別の治療薬との比較で息切れにおける統計学的に有意な改善を示す唯一の LAMA/LABA 配合剤であり、*Genuair* ドライパウダー吸入器により投与されます。

アストラゼネカは *Duaklir Genuair* の EU における開発および商業化の権利を保有しています。これは、2014 年 10 月に完了したアルミラル社 (以下、アルミラル) との戦略的提携により取得したものです。*Duaklir Genuair* が EU で承認を受けたことは、ドライパウダー吸入器と加圧式定量噴霧式吸入器の両方から選択が可能な製品を、医師や患者さんに提供するというアストラゼネカの吸入治療戦略において、重要な前進をもたらすものです。

Lesinurad

2015 年 1 月 22 日、アストラゼネカは欧州医薬品庁が Lesinurad 錠 200mg の販売承認申請 (MAA) を受理したことを発表しました。Lesinurad は選択的尿酸再吸収阻害剤で、追加療法が必要とされる痛風患者における、キサンチンオキシターゼ阻害薬のアロプリノールまたはフェブキソスタットと併用する高尿酸血症の慢性治療薬として開発されました。

同 MAA は 3 本の主要第 3 相併用療法試験 (CLEAR1, CLEAR2 ならびに CRYSTAL) からのデータに基づき申請されました。CLEAR1 と CLEAR2 は、アロプリノール単剤では目標血清尿酸値を達成していない痛風患者における、Lesinurad 1 日 1 回用量の有効性と安全性をアロプリノールとの併用と、アロプリノール単剤との比較評価した 12 カ月間、多施設、無作為化、プラセボ対照試験です。CRYSTAL は、結節性痛風患者 (尿酸の結晶が関節や皮膚に沈着している) における、Lesinurad の 1 日 1 回用量の有効性と安全性をフェブキソスタットとの併用と、フェブキソスタット単剤との比較評価した 12 カ月間、多施設、無作為化、プラセボ対照試験です。

Brodalumab

2014 年 11 月 11 日、アストラゼネカとアムジェン社は AMAGINE-2 試験と同じデザインの試験である AMAGINE-3 試験が、投与後 12 週時点で ustekinumab およびプラセボとの比較において主要評価項目を達成したことを発表しました。Brodalumab は、乾癬重症度スコアである Psoriasis Area Severity Index (PASI) を用いた評価で皮膚病変の寛解 (PASI 100) という主要評価項目を達成し、ustekinumab に対する優位性を示しました。プラセボとの比較では、大幅に高い比率の brodalumab 治療群患者が、12 週時点で重症度においてベースラインから最低 75% の改善 (PASI 75) を達成しました。また、大幅に高い比率の brodalumab 治療群患者が、プラセボとの比較で、12 週時点で皮膚症状の重症度の静的総合評価指標である static Physician Global Assessment (sPGA) による皮膚症状の消失 (sPGA0) または軽微 (sPGA1) も達成しました。

その結果、brodalumab 210mg 治療群の患者の 36.7%、および brodalumab 140mg 治療群の患者の 27%、ustekinumab 治療群の患者の 18.5%、プラセボ群の患者の 0.3% が、皮膚病変の寛解 (PASI 100) を達成したことが示されました。さらに、brodalumab 210mg 治療群患者の 85.1% と、brodalumab 140mg 治療群患者の 69.2%、ustekinumab group 治療群患者の 69.3%、プラセボ群患者の 6% が、PASI 75 を達成したことが示されました。

2014 年 11 月 25 日、アストラゼネカとアムジェン社は、brodalumab の 2 つの用量を 1,800 症例超の中等症から重症尋常性乾癬患者において評価する主要複数群間第 III 相試験である AMAGINE-2 試験において、12 週時点で ustekinumab およびプラセボとの比較において、主要評価項目を達成したと発表しました。Brodalumab 210mg 2 週間 1 回投与群および brodalumab 体重ベース解析群の各群において、皮膚病変の寛解 (PASI 100) という主要評価項目において ustekinumab に対する優位性が示されました。プラセボとの比較では、大幅に高

い比率の brodalumab 治療群患者が、12 週時点で重症度においてベースラインから最低 75%の改善（PASI 75）を達成しました。また、大幅に高い割合の brodalumab 治療群患者が、プラセボとの比較で、12 週時点で皮膚症状の消失（sPGA0）または軽微（sPGA1）も達成しました。

その結果、brodalumab 210mg 治療群患者の 44.4%、および brodalumab 体重ベース 治療群患者の 33.6%、brodalumab 140mg 治療群患者の 25.7%、ustekinumab 治療群患者の 21.7%、プラセボ群患者の 0.6% が皮膚病変の寛解（PASI 100）を達成したことが示されました。さらに、brodalumab 210mg 治療群患者の 86.3%、brodalumab 体重ベース 治療群患者の 77.0%、brodalumab 140mg 治療群患者の 66.6%、プラセボ群患者の 8.1% が、PASI 75 を達成したことが示されました。

Brodalumab はアムジェン社と共同開発中です。

2014 年米国リウマチ学会議年次集会

アストラゼネカとメディミュン社は拡大中の炎症・自己免疫ポートフォリオからの新たなデータを、2014 年 11 月 14 日～19 日、マサチューセッツ州ボストンで開催された 2014 年米国リウマチ学会議（ACR）の年次集会において発表しました。

ACR 集会において 15 本超の抄録がハイライトされ、アストラゼネカの炎症・自己免疫パイプラインの豊富さと継続的進展のエビデンスを提供しました。痛風を適応とする lesinurad のポジティブな第 3 相データ、および全身性エリテマトーデス治療薬 sifalimumab および anifrolumab、関節リウマチ治療薬 mavrilimumab、乾癬性関節炎治療薬 brodalumab を含む多くの開発中の革新的新薬に関する早期段階のデータが発表されました。

MEDI4736 (PD-L1)

2015 年第 1 四半期中にアストラゼネカは MEDI4736（抗 PD-L1 モノクローナル抗体）の ARCTIC 第 3 相サードライン非小細胞肺癌（NSCLC）試験の単剤療法サブスタディおよび ADJUVANT 第 3 相 NSCLC 補助療法試験の最初の患者に投薬を開始しました。

Lynparza

2014 年 12 月 18 日、アストラゼネカは、欧州委員会（EC）が Lynparza（olaparib）カプセル（400mg、1 日 2 回）を、プラチナ製剤ベースの化学療法に（完全あるいは部分）奏功している成人プラチナ製剤感受性再発 BRCA 変異陽性高悪性度・漿液性（生殖細胞系または体細胞）卵巣がん、卵管がん、原発性腹膜がんのファーストライン維持療法として承認したことを発表しました。

2014 年 12 月 19 日、アストラゼネカは FDA が Lynparza（olaparib）カプセル（400mg 1 日 2 回）を 3 回以上の化学療法による治療歴のある病的あるいは病的であることが疑われる生殖細胞系 BRCA 遺伝子変異陽性（gBRCAm）進行卵巣がんの治療薬として承認したことを発表しました。Lynparza は、既存の客観的奏効率と奏効期間のデータに基づき、FDA の迅速承認プログラムのもとで承認されました。本適応症の承認は、確認を目的とする現在実施中の第 III 相試験により臨床的ベネフィットが証明されることが前提となっています。

イレッサ

2014 年 12 月 2 日、アストラゼネカは、米国食品医薬品局（FDA）が、コンパニオン診断薬検査を通じて同定された、進行あるいは転移した上皮成長因子受容体（EGFR）変異陽性非小細胞肺癌のファーストライン治療の標的単剤療法としてイレッサの申請を受理したことを発表しました。処方箋薬ユーザーフィー法によるイレッサ審査終了目標時期は 2015 年第 3 四半期です。

イレッサは、腫瘍の増殖および転移に関与するシグナルを阻害する上皮成長因子受容体（EGFR）チロシンキナーゼ阻害剤です。アストラゼネカのイレッサの新薬承認申請は、白色人種患者におけるイレッサの有効性を示す第 4 相 IFUM 臨床試験に基づくものです。これは、IPASS 臨床試験ならびに他の協働グループによる試験の結果により支持されています。

イレッサは EGFR チロシンキナーゼ変異陽性局所進行あるいは転移非小細胞肺癌の治療薬としてすでに 90 カ国で承認されています。

Epanova STRENGTH 試験開始

2014 年第 4 四半期、アストラゼネカは心血管リスクが高い高トリグリセリド血症患者における *Epanova* のスタチン残留リスク低減を評価する長期アウトカム試験を開始しました。本試験は STRENGTH と称され、無作為化、二重盲検、良好にコントロールされた（コーンオイル）、並行群間試験であり、心血管リスクが高い高トリグリセリド血症患者約 13,000 症例を登録する試験です。患者は 1 日 1 回、コーンオイルとスタチン群、もしくは *Epanova* とスタチン群に 1 : 1 で無作為に割り付けられ、試験期間は主要心血管イベント（MACE）アウトカムに応じて約 3 年～5 年です。

Brilinta

2015 年 1 月 14 日、アストラゼネカは、21,000 症例を超える患者を対象とする大規模アウトカム試験である PEGASUS-TIMI 54 試験が、主要有効性評価項目の達成に成功したことを発表しました。本試験は、心筋梗塞の既往歴（1 ～ 3 年前）を有する患者さんを対象に、Brilinta（チカグレロール）錠 60mg1 日 2 回もしくは 90mg1 日 2 回と低用量アスピリンを併用したときのアテローム血栓性イベントの再発抑制効果を評価しました。本試験の主要有効性評価項目は、心血管死、心筋梗塞または脳梗塞からなる複合イベントでした。

予備解析の時点で予期しない安全性の問題は確認されておらず、現在、全データの評価を行っています。

PEGASUS-TIMI 54 試験の最終的な結果は、2015 年 3 月にサンディエゴで開催される米国心臓病学会年次学術集会で発表されます。さらなる解析を待って、アストラゼネカは本データを規制当局に提出する予定です。

Moventig

2014 年 12 月 9 日、アストラゼネカは *Moventig*（naloxegol）が、緩下剤に対する反応が不十分な成人患者におけるオピオイド誘発便秘治療薬として EC による販売承認を取得したと発表しました。*Moventig* は EU で最初に承認された、1 日 1 回経口末梢神経作用性 μ オピオイド受容体拮抗薬です。

Moventig は KODIAC 臨床プログラムからのデータに基づき承認されました。同プログラムは KODIAC-4、-5、-7、-8 の 4 本の試験により構成されています。KODIAC-4 と -5 は双方とも安全性と有効性を検討するプラセボ対照、二重盲検、12 週試験であり、KODIAC-7 試験は KODIAC-4 試験の 12 週安全性延長試験で、KODIAC-8 試験は 52 週、非盲検、長期安全性試験でした。

Movantik/Moventig はアストラゼネカと Nektar Therapeutics 社との全世界を対象とする独占的ライセンス契約の一環です。

BACE 阻害剤 AZD3293 の主要試験開始

2014 年 12 月 1 日、アストラゼネカとイーライリリー・アンド・カンパニーは AZD3293 の第 II/III 相試験である AMARANTH 試験に最初の患者を登録したことを発表しました。AZD3293 は、現在アルツハイマー型認知症の治療薬として開発中の経口アミロイド前駆体タンパク質 β サイト切断酵素（BACE）です。

LY3314814 としても知られる AZ3293 は、アルツハイマー型認知症患者さんおよび健常人を対象に実施した第 I 相の試験結果から、脳脊髄液中のアミロイド β レベルを減少させることが示されています。アルツハイマー型認知症の進行は、脳内にアミロイド斑が蓄積する特徴を有します。BACE はアミロイド β の生成に関与するタンパク質です。BACE を阻害することで、アミロイド斑の形成を防ぎ、最終的には病勢の進行を遅らせることが期待されます。

本主要試験は早期アルツハイマー型認知症治療におけるプラセボとの比較で AZD3293 の安全性と有効性を検討します。

Omnis Pharmaceuticals 社とのがん免疫療法の腫瘍溶解性ウイルスに関するライセンス契約

2015 年 1 月 12 日、アストラゼネカは、メディミューンが、腫瘍溶解性ウイルスの開発に特化する非上場バイオテック企業である Omnis Pharmaceuticals 社（以下、Omnis）とライセンス契約を締結したことを発表しました。本契約によりメディミューンは、同部門が開発中の免疫療法ポートフォリオの主な薬剤と、Omnis が開発中の遺伝子組み換え系水泡性口内炎ウイルス（VSV）である腫瘍溶解性ウイルスのプログラムを併用することが可能になります。本プログラムは現在第 I 相臨床試験段階にあり、肝細胞がんおよびその他肝臓転移がんの単剤治療薬として検討されています。

創薬におけるゲノム編集に CRISPR 技術を応用する共同研究

2015 年 1 月 29 日、アストラゼネカは、先駆的なゲノム編集技術である CRISPR を、同社の重点治療領域の創薬基盤全体において強化することを目的とする 4 件の共同研究を発表しました。本技術によりアストラゼネカは、ヒト疾患に近似する前臨床モデルにある新薬候補物質を同定し検証することが可能になります。アストラゼネカは、今回提携した共同研究機関と細胞株および化合物を共有し協働することで、CRISPR 技術の応用に関する知見を論文化し、本領域におけるさらに幅広い科学的進歩に貢献します。これら共同研究によって、アストラゼネカ社内の CRISPR プログラムが強化され、研究開発における「オープンイノベーション」アプローチがさらに発展します。

アストラゼネカの CRISPR 共同研究で今回提携した研究所・事業体は、英ケンブリッジの The Wellcome Trust Sanger Institute、米カリフォルニア州の The Innovative Genomics Initiative、米マサチューセッツ州の Thermo Fisher Scientific および Broad Institute/Whitehead Institute です。

営業およびフィナンシャルレビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）ベースおよび中核ベースで示されています。当社の報告ベースの財務情報に加えて提示するこうした指標はGAAP（一般会計原則）とは異なる指標であり、当社グループの進行中のビジネスの基礎的な財務実績やそれに加えてビジネス上の重要な要素をよりよく理解していただく上で有益だと当社経営陣は考えています。中核ベースの財務指標では、下記のような一定の重要項目を除外するよう調整されています。

- ITに関連した無形固定資産やその他の特殊項目を除く無形資産の償却費、減損
- 世界的な事業再構築費用プログラム関連費用および引当金（IT資産に対する世界的な事業再構築プログラムの影響に関連する費用も含む）
- 主に法的和解金や公正価格調整や偶発的対価に関連する帰属財務費用を含む買収関連費用からなるその他特別項目

これら調整の性質に関する詳細は、2013年度のアニュアルレポートの76ページおよび2013年米国証券取引委員会（SEC）への提出書類20-Fに示されています。

第4四半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万ドル単位。加重平均株数も100万ドル単位。下記に示す業績は2014年12月31日までの3カ月（四半期）に達成されてもので、2013年31日までの3カ月（前年度）の業績との比較を示しています。

	2014年 第4四半期 報告ベース	事業再構築費用	無形資産償却	糖尿病 アライアンス BMS 持ち分取得	その他	2014年 第4四半期 中核ベース	2013年 第4四半期 中核ベース	前年同期 比 %	CER %
売上高	6,683	-	-	-	-	6,683	6,844	(2)	2
売上原価	(1,667)	35	273	-	-	(1,359)	(1,289)		
売上総利益	5,016	35	273	-	-	5,324	5,555	(4)	1
売上比%	75.1%					79.7%	81.2%	-1.5	-0.6
物流費	(88)	-	-	-	-	(88)	(72)	22	28
売上比%	1.3%					1.3%	1.1%	-0.2	-0.3
研究開発費	(1,499)	97	42	-	-	(1,360)	(1,205)	13	17
売上比%	22.5%					20.4%	17.6%	-2.8	-2.6
販売・一般管理費	(4,084)	259	211	636	25	(2,953)	(2,483)	19	23
売上比%	61.1%					44.2%	36.3%	-7.9	-7.6
その他収入	306	-	53	-	(98)	261	188	39	47
売上比%	4.6%					3.9%	2.8%	+1.1	+1.2
営業利益（損失）	(349)	391	579	636	(73)	1,184	1,983	(40)	(33)
売上比%	(5.2%)					17.7%	29.0%	-11.3	-9.9
正味金融費用	(227)	-	-	96	19	(112)	(124)		
合併事業	(4)	-	-	-	-	(4)	-		
税引前利益（損失）	(580)	391	579	732	(54)	1,068	1,859	(43)	(34)
税金	259	(65)	(116)	(203)	6	(119)	(315)		
税引後利益（損失）	(321)	326	463	529	(48)	949	1,544	(39)	(28)
非支配持分	-	-	-	-	-	-	(4)		
純利益（損失）	(321)	326	463	529	(48)	949	1,540	(38)	(27)
加重平均株式数	1,263	1,263	1,263	1,263	1,263	1,263	1,254		
1株当たり利益（損失）	(0.25)	0.26	0.37	0.42	(0.04)	0.76	1.23	(38)	(28)

本四半期の売上は CER ベースで 2%増の 66 億 8,300 万ドル。実質為替レートベースでは売上は主要通貨に対する米ドル高を反映して 2%減でした。現在までの主要な独占権失効による影響は概ね安定しています。グローバル糖尿病アライアンスの BMS の持ち分取得からの追加収入、およびブランド医薬品フィーの修正再表示（下記参照）の影響 1 億 1,300 万ドルを除外すると、本四半期の売上は前年度比ほぼ横ばいでした。

2014 年 7 月、米国歳入庁（IRS）は、2010 年に医療制度改革法により課された年間ブランド処方医薬品フィー（以下、フィー）の認識方法に関し最終的な規制を発出しました。その結果、本法律の対象事業体は、各製品の売上が生じるに従い、義務付けられたフィーを未払い計上することになりました。アストラゼネカは、この

新たな規制を反映し、第 3 四半期の業績の一部として販売・一般管理費（SG&A）の遡及費用を計上しました。新規制のもとではフィーは現在の年度の実際の売上に基きます。したがって、フィーを SG&A の費用としてではなく売上からの控除として計上するのがより適切です。これに準じて、アストラゼネカは、第 4 四半期から損益計算書のカテゴリ分類を変更し、下半期の 1 億 1,300 万ドルの費用を第 4 四半期から販売・一般管理費ではなく収入として再分類しました。当社は 2014 年第 3 四半期業績の修正再表示は行っていません。また、この損益計算書の再分類による利益への影響はありません。

本四半期中核対売上総利益率は 0.6%減の 79.7%フィーの修正再表示の影響を除いた中核対売上総利益率は 80.0%。

中核研究開発費は 17%増の 13 億 6,000 万ドルで、この増加は主に後期段階パイプラインの加速と事業開発活動を通じた資産取得に支出された追加経費を反映しています。

中核販売・一般管理費は 23%増の 29 億 5,300 万ドル。一般管理費の減少を、グローバル糖尿病アライアンスの BMS の持ち分取得により前年度比増加した営業・マーケティング経費における多額の投資が上回りました。第 4 四半期には、フォシーガおよび Lynparza を含む進行中の上市、Movantik/Moventig の上市前活動、およびオンコロジーポートフォリオを含む後期段階パイプラインへの追加的経費が支出されました。

本四半期中核その他収入は 47%増の 2 億 6,100 万ドルでした。この増加は売却益ならびに blinatumomab と Duaklir に関連する開発収入を反映しています。

中核営業利益は 33%減の 11 億 8,400 万ドル。中核営業利益率は、当社がパイプラインおよび成長基盤への投資を継続したため、9.9 ポイント減の対売上比 17.7%となりました。

中核 1 株当たり利益は 28%減の 0.76 ドル。発行済み株式数の増加の影響を、前年同期比低下した税率の影響が上回ったため、この減少は中核営業利益の減少と概ね同様でした。

報告ベースの営業損失は前年度損失比 59%減の 3 億 4,900 万ドル。報告ベースの 1 株当たり損失は同様に減少し 69%減の 0.25 ドル。前年同期にはビデュリオン関連の特別無形減損費用が含まれていたため、上述した中核営業利益の減少を中核調整の減少が上回りました。

通年

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万ドル単位。加重平均株数も100万ドル単位。下記に示す業績は2014年12月31日までの12カ月（通年）に達成されてもので、2013年31日までの12カ月（前年度）の業績との比較を示しています。

	2014年 報告ベース	事業再構 築費用	無形資産 償却	糖尿病ア ライアン ス BMS 持ち分取 得	その他	2014年 中核ベー ス	2013年 中核ベー ス	前年 同期 比 %	CER %
売上高	26,095	-	-	-	-	26,095	25,711	1	3
売上原価	(5,842)	107	701	146	-	(4,888)	(4,633)		
売上総利益	20,253	107	701	146	-	21,207	21,078	1	3
売上比%	77.6%					81.3%	82.0%	-0.7	-0.4
物流費	(324)	-	-	-	-	(324)	(306)	6	7
売上比%	1.3%					1.3%	1.2%	-0.1	-
研究開発費	(5,579)	497	141	-	-	(4,941)	(4,269)	16	15
売上比%	21.3%					18.9%	16.6%	-2.3	-1.9
販売・一般管理費	(13,000)	662	811	932	379	(10,216)	(8,865)	15	16
売上比%	49.8%					39.1%	34.5%	-4.6	-4.4
その他収入	787	292	230	-	(98)	1,211	752	61	64
売上比%	3.0%					4.6%	2.9%	+1.7	+1.7
営業利益	2,137	1,558	1,883	1,078	281	6,937	8,390	(17)	(13)
売上比%	8.2%					26.6%	32.6%	-6.0	-5.0
正味金融費用	(885)	-	-	345	47	(493)	(445)		
合併事業	(6)	-	-	-	-	(6)	-		
税引前利益	1,246	1,558	1,883	1,423	328	6,438	7,945	(19)	(13)
税金	(11)	(255)	(376)	(356)	(42)	(1,040)	(1,611)		
税引後利益	1,235	1,303	1,507	1,067	286	5,398	6,334	(15)	(8)
非支配持分	(2)	-	-	-	-	(2)	(15)		
純利益	1,233	1,303	1,507	1,067	286	5,396	6,319	(15)	(8)
加重平均株式数	1,262	1,262	1,262	1,262	1,262	1,262	1,252		
1株当たり利益 (EPS)	0.98	1.03	1.19	0.85	0.23	4.28	5.05	(15)	(8)

本年度の売上は CER ベースで 3%増の 260 億 9,500 万ドル。これは上方修正された当社のガイダンスに沿った水準ですが、実質ベースでは為替レート変動のマイナスの影響により 1%増。当社の成長基盤の堅調な業績が独占権失効の影響を上回りました。米国の売上は 4%増の 101 億 2,000 万ドル。ヨーロッパの売上は 1%減の 66 億 3,800 万ドル。既成その他地域（ROW）の売上は 4%減の 35 億 1,000 万ドル。新興市場の売上は、中国の売上が 22%増の 22 億 4,200 万ドルに達したことにけん引され、12%増の 58 億 2,700 万ドル。中国は 2014 年に当社の国別の第 2 位の市場になりました。グローバル糖尿病アライアンスの BMS の持ち分取得からの追加収入およびブランド処方医薬品フィー修正再表示の影響を除くと、本年度の全世界の売上は横ばいでした。

通年の対売上中核総利益率は、0.4 ポイント減の 81.3%。

通年中核研究開発費は、後期段階パイプラインの拡大を反映し、15%増の 49 億 4,100 万ドル。

中核販売・一般管理費は 16%増の 102 億 1,600 万ドル。これは、成長基盤に焦点をあてた営業・マーケティングへの投資によるものです。通年の成長基盤への選択的投資には一部一般管理費の節減分が充当されました。

通年中核その他収入は 64%増の 12 億 1,100 万ドル。ネキシウム OTC 発売関連のマイルストーン収入がこの増加の最大の要因です。

通年中核営業利益は 13%減の 69 億 3,700 万ドル。中核営業利益率は 5.0 ポイント減の対売上 26.6%。当社は累進的配当や、強力なパイプラインの進捗および成長の回復を支えるために必要な柔軟性を維持することに引き続き集中します。

中核 1 株当たり利益は、上方修正された当社のガイダンスに沿って、前年比 8%減の 4.28 ドル。中核営業利益の減少より減少幅が小さいのは、主に税率の低下によります。この税率から生じる良好な比較は、一部、発行済み株式数の増加と前年比微増した通年中核金融費用により一部相殺されました。

中核営業利益の調整は本年度 48 億ドルに達し、前年度の 46 億 7,800 万ドルから微増しました。これらほぼ同様の中核ベースの調整の結果として、当然、中核営業利益よりも報告ベースの営業利益のほうが大幅に減少します。したがって、報告ベースの営業利益は 31%減の 21 億 3,700 万ドル、その結果、報告ベースの 1 株当たり利益は 34%に低下。

生産性の向上

本四半期に 3 億 9,100 万ドルの事業再構築費用が計上され、通年の総額は 15 億 5,800 万ドルとなりました。当社は、4 段階の事業再構築プログラムを 2013 年第 1 四半期に発表し、その後 2014 年上半期には拡大を発表しており、本プログラムは順調な進捗を果たしています。本プログラムの費用に加え、通年の事業再構築費用には同年買収した事業の統合およびその結果決定された米マサチューセッツ州 Westborough（製造）拠点からの撤退に支出された 2 億 6,100 万ドルが含まれています。

金融収益・費用

中核正味金融費用は 4 億 9,300 万ドル。前年度は 4 億 4,500 万ドル。報告ベースの正味金融費用は、主にグローバル糖尿病アライアンスの BMS 持ち分取得に関連する、事業統合において認識された偶発的対価の債権者への割戻に関連する 3 億 9,100 万ドルを含みます。

税金

通年税金支払い額は 12 億 100 万ドルで、報告ベース利益の 96%および中核利益の 19%に相当します。

通年税率は報告ベースおよび中核ベースとも約 18%でした。

移転価格案件に関する総額 3 億 900 万ドルの特別利益、事業統合から生じる偶発的対価の非中核の再評価、および英国パテントボックスの恩恵を考慮すると、報告ベース税率および中核税率はそれぞれ 1%、16%に低下します。

2013 年 12 月 31 日までの 2013 年度の通年報告ベース税率および中核税率はそれぞれ 21%、20%でした。

キャッシュフロー

通年で営業活動から生じたキャッシュフローは、営業利益の減少と支払い税額の増額を上回る運転資金の改善により 70 億 5,800 万ドル。なお、前年度は 74 億ドル。

投資活動から生じた正味キャッシュ・アウトフローは、本年度 70 億 3,200 万ドルに対し前年度は 28 億 8,900 万ドル。この増加は、主にグローバル糖尿病アライアンスの BMS 持ち分取得および呼吸器領域におけるアルミラル社との戦略的提携に関連する、44 億 6,100 万ドルに上る契約一時金ならびに偶発的対価の支払いによるものです。

配当 35 億 2,100 万ドルは、ストックオプションの行使による 2 億 7,900 万ドルの株式発行の対価により一部相殺され、株主への正味現金配分は 32 億 4,200 万ドルでした。

資本と負債の構造

2014 年 12 月 31 日現在、未払い負債残高（有利子負債および借入金）は 108 億 4,300 万ドル（2013 年 12 月 31 日時点では 103 億 7,600 万ドル）。2014 年 12 月 31 日現在の未払い負債残高のうち、1 年以内に返済期限が到来するのは 24 億 4,600 万ドル（2013 年 12 月 31 日時点では、17 億 8,800 万ドル）。

2014 年 12 月 31 日現在、当社の正味負債ポジションは 32 億 2,300 万ドル。

発行済み株式数

2014 年通年で、株式オプション行使の対価として 600 万株を 2 億 7,900 万ドルで発行しました。

2014 年 12 月 31 日現在の発行済み株式総数は 12 億 6,300 万株。

配当と自社株買い

取締役会は、1.90 ドル（125.0 ペンス、15.62 クローナ）の第 2 回中間配当を 2015 年 3 月 23 日に支払うことを勧告しました。この結果、通年配当は 2.80 ドル（178.1 ペンス、21.82 クローナ）。この配当は取締役会が採択した年間配当水準の維持あるいは増配を目的とする累進的配当政策に合致するものです。

取締役会は、引き続き当社、債権者および株主に対しそれぞれの利益のバランスを図ることを目的に、配分政策および全般的な財務戦略を定期的に見直しています。また、取締役会は高い投資適格格付けの獲得を引き続き目指しています。事業投資や累進的配当政策に要する資金調達、および債務元利未払い金の支払いに配慮し、取締役会には現在自社株買いプログラムを再開する意図はありません。

今後の見通し

- 売上収入はCER¹ベースで1桁台半ばのパーセンテージで減少すると予想されます。当社のビジネスモデルに沿って、パートナーシップおよび選択的な製品や技術のライセンスからの社外提携収入を探求します。中核EPSはCERベースで1桁台前半のパーセンテージで増加すると予想されます。
- 当社は為替感受性に関して、下記のガイダンスではない情報も提供します。為替レート²に基づき、売上収入は2桁台前半のパーセンテージで減少し、中核 EPS は概ね 2014 年度と同様であると予想されます。為替感受性に関する追加情報は、以下をご覧ください。

通貨	Primary relevance 主な関連項目	対米ドル 平均為替レート		増減 %	対米ドル為替レートが 5%下落した 場合の影響 (100 万ドル) ³ Impact of 5% weakening in exchange rate versus USD (\$m) ³	
		2014 年	2015 年 1 月 January 2015 ²		売上収入	Core operating profit
ユーロ	売上収入	0.75	0.86	(12)	(196)	(120)
日本円	売上収入	105.87	118.44	(11)	(105)	(75)
スウェーデン クローナ	コスト	6.86	8.09	(15)	(5)	96
英国ポンド	コスト	0.61	0.66	(8)	(34)	104
その他 ⁴					(214)	(123)

¹ 米国市場でのネキシウム後発品の近日中の発売を前提とする

² 2015 年 1 月の平均日足スポットレートに基づく

³ 2014 年実質グループ為替レートに基づく

⁴ 他の重要な通貨はオーストラリアドル、ブラジルレア、カナダドル、韓国ウォン、ロシアルーブルを含む

売上高

別段の記載がない限り、伸び率は全て恒常為替レート（CER）ベース。財務上の数字はすべて100万ドル。
グループの製品別、地域別の売上の詳細分析は注記9 および10 に示されています。

	第4四半期		前年比 %		通年		前年比 %	
	2014年	2013年			2014年	2013年		
	100万ドル	100万ドル	実質	CER	100万ドル	100万ドル	実質	CER
循環器・代謝								
クレストール	1,388	1,463	(5)	(2)	5,512	5,622	h (2)	(1)
セロケン/Toprol-XL	174	170	2	8	758	750	1	4
オングリザ	200	93	115	122	820	378	117	119
Atacand	117	134	(13)	(7)	501	611	(18)	(16)
Brilinta/Brilique	133	92	45	52	476	283	68	70
バイエッタ	69	54	28	31	327	206	59	59
ビデュリオン	123	49	151	153	440	151	191	191
オンコロジー								
ゾラデックス	227	247	(8)	(2)	924	996	(7)	(4)
イレッサ	150	158	(5)	2	623	647	(4)	(1)
フェソロデックス	182	182	-	4	720	681	6	7
アリミデックス	68	86	(21)	(15)	298	351	(15)	(12)
カソデックス	74	95	(22)	(16)	320	376	(15)	(10)
呼吸器・炎症・自己免疫								
シムビコート	978	976	-	5	3,801	3,483	9	10
パルミコート	269	245	10	15	946	867	9	11
感染症・ニューロサイエンス・消化器								
ネキシウム	832	991	(16)	(13)	3,655	3,872	(6)	(4)
シナジス	404	515	(22)	(22)	900	1,060	(15)	(15)
セロクエル XR	309	337	(9)	(6)	1,224	1,337	(9)	(8)
セロクエル IR	(28)	35	n/m	n/m	178	345	(48)	(46)

循環器・代謝疾患

- クレストールの米国の第4四半期売上は2%減の7億6,000万ドル。これは、主にブランド処方医薬品フィー（以下、フィー）の会計処理基準変更の影響によるものです。クレストールの総処方量は4%減少しましたが、第4四半期の在庫増によりこの影響は軽減されました。クレストールの2014年の通年売上は横ばいでした。これは前年度のリベート調整を含む良好な実勢価格の実現により、フィーの影響と数量減が相殺されたためです。
- クレストールのROW（米国・ヨーロッパ以外の地域）の第4四半期売上は1%減の6億2,800万ドル。これは、オーストラリアの後発品競合の影響の安定および日本の価格圧力が、中国の36%成長によりけん引された新興市場の成長によって一部軽減されたことを反映しています。クレストールのROWの2014年通年売上は2%減の25億9,400万ドル。
- Toprol-XL 製品群（自社後発品を含む）の米国での売上は、本四半期参入後発品の増加により21%減の1,500万ドル。セロケンのROWでの売上は、本四半期19%の売上増を達成した新興市場にけん引され、12%増の1億5,900万ドル。全世界のセロケン（自社後発品を除く）の2014年通年売上は7%増の7億1,500万ドル。
- オングリザフランチャイズの第4四半期売上は122%増の2億ドル。米国のオングリザフランチャイズの第4四半期売上は60%増。これは、オーナーシップ変更による利益が、一部、処方量の7%減および競合激化による実勢価格の下落により減少したためです。オングリザのROWの第4四半期売上は、すべての地域が堅調で、250%増。全世界の売上は2014年通年で、119%増の8億2,000万ドル。

- *Atacand* の本四半期の売上は 7%減の 1 億 1,700 万ドル。これは、ヨーロッパと ROW 既成市場の後発品の競合により新興市場の 18%成長がマイナス影響を受けたためです。2014 年通年の売上は 16%減の 5 億 100 万ドル。
- *Brilinta/Brilique* の第 4 四半期の売上は 52%増の 1 億 3,300 万ドル。米国を除くと、売上増は主に 25%増のヨーロッパおよび売上規模は小さいものの急速に成長している新興市場（118%増）によりけん引されました。2014 年通年売上は 70%増の 4 億 7,600 万ドル。
- *Brilinta* の米国の第 4 四半期売上は 79%増の 4,300 万ドル。*Brilinta* の 2014 年第 4 四半期の米国での総処方量は、2014 年第 3 四半期比 13%増。新規患者シェアは 12 月に 0.7 ポイント増の 8.2%で、*Brilinta* は第 4 四半期に初めて米国のトップブランドの地位を達成し、12 月には週別達成目標シェアを獲得しました。フィーの会計処理基準変更の影響により第 4 四半期の売上は 4%のマイナス影響を受けました。2014 年通年の *Brilinta* の売上は倍増し 1 億 4,600 万ドル。
- *バイエッタ*および*ビデュリオン*の米国の第 4 四半期売上は 87%増の 1 億 4,200 万ドル。*ビデュリオン*の総処方量は本四半期 40%増、前年同期比 9%増でした。これは 9 月の *Bydureon Pen* の発売にけん引されたものです。ROW の売上は、ヨーロッパの*ビデュリオン*の売上にけん引され 96%増の 5,000 万ドル。全世界の 2014 年通年売上は 115%増の 7 億 7,600 万ドル。

オンコロジー

- *ゾラデックス*の第 4 四半期売上は 2%減の 2 億 2,700 万ドル。これは中国の 50%成長を全体的な減少が上回ったためです。2014 年通年売上は 4%減の 9 億 2,400 万ドル。
- *イレッサ*の第 4 四半期売上は、新興市場の 13%増にけん引され、2%増の 1 億 5,000 万ドル。*イレッサ*の 2014 年通年売上は 1%減の 6 億 2,300 万ドル。
- *アリミデックス*の第 4 四半期の売上は 15%減の 6,800 万ドル。通年売上は 12%減。この減少は、新興市場での成長を独占権失効の継続的影響が上回ったのが原因です。
- *カソデックス*の 2014 年通年売上は 10%減の 3 億 2,000 万ドル。この減少の原因は後発品の競合で、最大の影響を受けた日本の売上は 19%減。これらの損失は新興市場の 14%増によりわずかに一部軽減されました。

呼吸器、炎症および自己免疫

- *シムビコート*の米国の第 4 四半期売上は、前年比 13%増の 3 億 9,500 万ドルでしたが、減速しつつあります。*シムビコート*の第 4 四半期の総処方量は 32%増。定量配合剤の総処方量に占める*シムビコート*のシェアは、2014 年 12 月に 33.1%に達し、2014 年通年で 6.8 ポイント増加しました。小売需要の増加は、非小売需要の低下とフィーによる価格低下、および 2015 年に予想される不利なフォーミュラリー変更に先行して開始された第 4 四半期の自己負担金援助コストの上昇により一部相殺されました。*シムビコート*の米国の 2014 年通年売上は 23%増の 15 億 1,100 万ドル。
- *シムビコート*の ROW の第 4 四半期売上は横ばいの 5 億 8,300 万ドル。ヨーロッパの売上は 7%減。この原因は、最近発売された競合類似品からの競合増加による価格圧力です。ヨーロッパの売上減は、一部、新興市場の 25%増および ROW の既成市場の 2%増により緩和されました。*シムビコート*の ROW の 2014 年通年売上は 4%増の 22 億 9,000 万ドル。
- *パルミコート*の第 4 四半期売上は、新興市場の 39%増にけん引され、15%増の 2 億 6,900 万ドル。新興市場を除くと、*パルミコート*の売上は 4%減の 1 億 2,500 万ドル。2014 年通年売上は、新興市場の 35%増にけん引され、11%増の 9 億 4,600 万ドル。

感染症、ニューロサイエンスおよび消化器

- *ネキシウム*の米国の第 4 四半期売上は 14%減の 4 億 6,900 万ドル。これは、売上数量の減少とフィーの会計処理基準変更の影響によるものです。*ネキシウム*の 2014 年通年売上は、やはり数量減が原因で 12%減の 18 億 7,600 万ドル。
- *ネキシウム*の ROW の第 4 四半期売上は 13%減の 3 億 6,300 万ドル。この減少の原因は、多くの市場における後発品の競合、中国の年末在庫減および日本の包装関連のリコールです。*ネキシウム*の ROW の

2014 年通年売上は、日本の 38%増および中国の 21%増にけん引され、6%増の 17 億 7,900 万ドル。

- シナジスの米国の第 4 四半期売上は 22%減の 2 億 3,400 万ドル。この減少は、2014 年半ばに発出された米国小児科学会感染症委員会のガイドラインに関連する約 50%の数量減によるものです。この新ガイドラインにより、シナジスによる予防療法対象患者の適格性がさらに制限されました。このガイドラインの変更は承認された適応症と矛盾していますが、数量に対し大きな影響があり、この影響は 2015 年も継続すると予想されます。しかし、メディケイドの規定に有利な調整が加えられ、数量減の影響が一部緩和されました。米国以外の第 4 四半期の売上は 21%減の 1 億 7,000 万ドル。この減少の大部分は、価格の低下と米国以外の地域の販売元であるアッヴィへの出荷関連売上の四半期毎の変動によるものです。2014 年通年売上は 15%減の 9 億ドル。この減少は、米国以外の 9%減と、29%の数量減が有利な価格調整により緩和された米国の 19%減によるものです。
- セロクエル XR の米国の第 4 四半期売上は 1%増の 1 億 9,600 万ドル。これは主に実勢価格がフィーの会計処理基準変更に関する影響がマイナス影響を上回ったためです。米国の 2014 年通年売上は、1%減の 7 億 3,800 万ドル。
- セロクエル XR の ROW の第 4 四半期の売上は 15%減の 1 億 1,300 万ドル。これは、ヨーロッパでの後発品（複数製品の「リスクのある」発売を含む）の競合により売上が 18%減少した影響です。
- セロクエル IR の米国の第 4 四半期の売上はマイナス 9,200 万ドル。これは、2014 年下半年に生じたより高い返品率を考慮した、当社の返品規定の微調整によるものです。返品は、独占権失効日に流通過程にあった製品の有効期限切れと同時に増加しました。2014 年通年売上は同じ理由でマイナス 7,200 万ドルでした。
- セロクエル IR の ROW の第 4 四半期売上は 6,400 万ドル。2014 年通年売上は、主に後発品の競合により 28%減の 2 億 5,000 万ドル。

地域別売上高

	第 4 四半期		前年同期比(%)		通年		前年同期比(%)	
	2014 年	2013 年			2014 年	2013 年		
	100 万ドル	100 万ドル	実質	CER	100 万ドル	100 万ドル	実質	CER
米国	2,641	2,634	-	-	10,120	9,691	4	4
ヨーロッパ	1,713	1,822	(6)	-	6,638	6,658	-	(1)
ROW の既成市場 ¹	851	1,023	(17)	(8)	3,510	3,973	(12)	(4)
日本	543	668	(19)	(9)	2,227	2,485	(10)	(3)
カナダ	157	161	(2)	4	590	637	(7)	(1)
その他の ROW の既成市場	151	194	(22)	(16)	693	851	(19)	(13)
新興市場 ²	1,478	1,365	8	14	5,827	5,389	8	12
中国	566	477	18	19	2,242	1,840	22	22
合計	6,683	6,844	(2)	2	26,095	25,711	1	3

1 ROW の既成市場を構成するのは、カナダ、日本、オーストラリアおよびニュージーランドです。

2 ROW の新興市場を構成するのは、ブラジル、中国、インド、メキシコ、ロシア、およびトルコを含む上記以外のすべての地域です。

- 米国の第 4 四半期の売上は前年比横ばいの、26 億 4,100 万ドルでした。これは、堅調な成長基盤に加え、グローバル糖尿病アライアンスの BMS の持ち分取得を完了したことによる影響が一部寄与しています。また、糖尿病製品は 1 億 5,700 万ドルの増分売上を達成しました。ブランド処方医薬品フィー算定の変更に伴ってブランド製品に 1 億 1,300 万ドルのフィーが課せられ、ネキシウム、セロクエル IR およびシナジスなどのブランド製品の売上は減少しましたが、シムビコートおよび Brilinta の成長によって相殺されました。
- ヨーロッパの第 4 四半期の売上も前年比横ばいでした。これは、糖尿病に関するグローバルアライアンスの BMS の持ち分取得による良好な影響と、Brilinta の継続的成長というプラス要因、ヨーロッパのシムビコート類似品による影響、セロクエル XR と Atacand の独占権失効による継続的な影響、およびシナジスの正味価格低下というマイナス要因が、同程度であったためです。
- ROW 既成市場の第 4 四半期の売上は 8%減でした。これは、後発品の圧力によるマイナス影響が成長基盤の業績のプラス影響を上回ったためです。第 4 四半期の日本の売上は、12 月のネキシウムの包装不備

による回収、在庫減、および 2014 年 4 月に実施された隔年薬価切り下げの影響により 9%減少しました。

- 新興市場の第 4 四半期の売上は 14%増でした。本四半期に在庫が減少したにもかかわらず、売上が 19%伸長した中国などを含め新興市場の力強い成長が見られました。中国以外の新興市場は第 4 四半期に 12%成長しました。この成長は主に呼吸器および循環器製品によりけん引されました。

要約連結包括利益計算書

12月31日までの1年間	2014年 100万ドル	2013年 100万ドル
売上高	26,095	25,711
売上原価	(5,842)	(5,261)
売上総利益	20,253	20,450
物流費	(324)	(306)
研究開発費	(5,579)	(4,821)
販売・一般管理費	(13,000)	(12,206)
その他営業損益	787	595
営業利益	2,137	3,712
金融収益	78	50
金融費用	(963)	(495)
合併企業の税引き後損失持分	(6)	-
税引前利益	1,246	3,267
税金	(11)	(696)
当期利益	1,235	2,571
その他の包括利益		
利益または損失として再分類されない項目		
再算定した確定給付債務	(766)	8
利益または損失として再分類されない税金	216	(82)
再分類されない利益または損失合計	(550)	(74)
今後利益または損失として再分類される可能性のある項目		
連結に伴う為替換算損益	(823)	(166)
純投資ヘッジのための借入金における為替差損益	(529)	(58)
純投資ヘッジで指定された金融派生商品における公正価値の変動	100	111
キャッシュフローヘッジによる損失の償却	1	1
売却可能金融資産評価利益	245	69
今後利益または損失として再分類される可能性のある税金	50	4
	(956)	(39)
当期包括利益（税引後）	(1,506)	(113)
当期包括利益合計	(271)	2,458
当期利益の帰属：		
親会社の所有者	1,233	2,556
非支配持分	2	15
	1,235	2,571
包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	(266)	2,470
非支配持分	(5)	(12)
	(271)	2,458
額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	\$0.98	\$2.04
希薄化後額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	\$0.98	\$2.04
加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,262	1,252
希薄化後加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,264	1,254

要約連結包括利益計算書

12月31日までの四半期	2014年 100万ドル	2013年 100万ドル
売上高	6,683	6,844
売上原価	(1,667)	(1,440)
売上総利益	5,016	5,404
物流費	(88)	(72)
研究開発費	(1,499)	(1,429)
販売・一般管理費	(4,084)	(4,642)
その他営業損益	306	148
営業利益	(349)	(591)
金融収益	33	13
金融費用	(260)	(137)
合併企業の税引き後損失持分	(4)	-
税引前損失	(580)	(715)
税金	259	195
当期損失	(321)	(520)
その他の包括利益		
利益または損失として再分類されない項目		
再算定した確定給付債務	(268)	247
利益または損失として再分類されない税金	89	(44)
	(179)	203
今後利益または損失として再分類される可能性のある項目		
連結に伴う為替換算損益	(411)	(26)
純投資ヘッジのための借入金における為替差損益	(237)	(35)
純投資ヘッジで指定された金融派生商品における公正価値の変動	64	51
キャッシュフローヘッジによる損失の償却	172	10
売却可能金融資産評価利益	20	3
今後利益または損失として再分類される可能性のある税金	(392)	3
	(571)	206
当期包括利益（税引後）	(892)	(314)
当期包括利益合計		
当期損益の帰属：	(321)	(524)
親会社の所有者	-	4
非支配持分	(321)	(520)
包括利益合計の帰属：	(892)	(315)
親会社の所有者	-	1
非支配持分	(892)	(314)
額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	(\$0.25)	(\$0.42)
希薄化後額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	(\$0.25)	(\$0.42)
加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,263	1,254
希薄化後加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,265	1,256

要約連結財政状態計算書

	2014 年 12 月 31 日現在 100 万ドル	2013 年 12 月 31 日現在 100 万ドル
資産		
非流動資産		
有形固定資産	6,010	5,818
営業権	11,550	9,981
無形固定資産	20,981	16,047
金融派生商品	465	365
合併会社への投資	59	-
その他の投資	502	281
その他の債権	1,112	1,867
繰延税金資産	1,219	1,205
	41,898	35,564
流動資産		
棚卸資産	1,960	1,909
売掛金およびその他の債権	7,232	7,879
その他の投資	795	796
金融派生商品	21	40
未収法人所得税	329	494
現金および現金同等物	6,360	9,217
	16,697	20,335
資産合計	58,595	55,899
負債		
流動負債		
有利子負債・借入金	(2,446)	(1,788)
買掛金およびその他の債務	(11,886)	(10,362)
金融派生商品	(21)	(2)
引当金	(623)	(823)
未払法人所得税	(2,354)	(3,076)
	(17,330)	(16,051)
非流動負債		
有利子負債・借入金	(8,397)	(8,588)
金融派生商品	-	(1)
繰延税金負債	(1,796)	(2,827)
退職給付債務	(2,951)	(2,261)
引当金	(484)	(566)
その他の債務	(7,991)	(2,352)
	(21,619)	(16,595)
負債合計	(38,949)	(32,646)
純資産	19,646	23,253
資本		
親会社の所有者に帰属する資本金および準備金		
資本金	316	315
株式払込剰余金	4,261	3,983
その他の積立金	2,021	1,966

利益剰余金	13,029	16,960
	19,627	23,224
非支配持分	19	29
資本合計	19,646	23,253

要約連結キャッシュフロー計算書

12月31日までの1年間	2014年 100万ドル	2013年 100万ドル
営業活動によるキャッシュフロー		
税引前利益	1,246	3,267
金融収益および費用	885	445
合併企業の税引き前損失持分	6	-
減価償却費、償却費および減損損失	3,282	4,583
運転資本および短期引当金の減少	2,508	166
非現金その他の変動	865	258
営業活動から得られたキャッシュ	8,792	8,719
支払利息	(533)	(475)
支払税金	(1,201)	(844)
営業活動による正味キャッシュ・インフロー	7,058	7,400
投資活動によるキャッシュフロー		
短期投資および固定性預金の変動	34	130
有形固定資産の取得	(1,012)	(742)
有形固定資産の売却	158	69
無形固定資産の取得	(1,740)	(1,316)
無形固定資産の売却	-	35
非流動投資の取得	(130)	(91)
非流動投資の売却	59	38
合併企業への支払	(70)	-
買収の一時金の支払	(3,804)	(1,158)
買収の偶発的対価の支払	(657)	-
受取利息	140	114
子会社による非支配持分に対する支払	(10)	(10)
子会社による非支配持分からの収入	-	42
投資活動による正味キャッシュ・アウトフロー	(7,032)	(2,889)
財務活動前の正味キャッシュ（アウトフロー） / インフロー	26	4,511
財務活動によるキャッシュフロー		
株式の発行による収入	279	482
ローンの発行	919	-
ローンの弁済	(750)	-
支払配当金	(3,521)	(3,461)
支払配当金に関連するヘッジ契約	(14)	(36)
ファイナンスリースの債務の弁済	(36)	(27)
非支配持分取得に対する支払	(102)	-
短期借入金の変動	520	(5)
財務活動による正味キャッシュ・アウトフロー	(2,705)	(3,047)
当期現金および現金同等物の正味（減少額） / 増加額	(2,679)	1,464
現金および現金同等物期首残高	8,995	7,596
為替変動による影響	(152)	(65)
現金および現金同等物期末残高	6,164	8,995
現金および現金同等物の内訳		
現金および現金同等物	6,360	9,217
当座貸越	(196)	(222)

	6,164	8,995
--	-------	-------

要約連結持分変動計算書

	資本金 100 万ドル	株式払込 み剰余金 100 万ドル	その他の 積立金* 100 万ドル	利益剰余金 100 万ドル	合計 100 万ドル	非支配 持分 100 万ドル	資本合計 100 万ドル
2013 年 1 月 1 日現在	312	3,504	1,960	17,955	23,731	215	23,946
当期利益	-	-	-	2,556	2,556	15	2,571
その他の包括利益	-	-	-	(86)	(86)	(27)	(113)
その他の積立金への振替	-	-	6	(6)	-	-	-
所有者との取引：							
配当金	-	-	-	(3,499)	(3,499)	-	(3,499)
普通株式の発行	3	479	-	-	482	-	482
株式報酬	-	-	-	(57)	(57)	-	(57)
非支配持分から支払債務への振替	-	-	-	-	-	(6)	(6)
非支配持分に対する 配当金	-	-	-	-	-	(3)	(3)
非支配持分の正味買収	-	-	-	97	97	(165)	(68)
純変動	3	479	6	(995)	(507)	(186)	(693)
2013 年 12 月 31 日現在	315	3,983	1,966	16,960	23,224	29	23,253
	資本金 100 万ドル	株式払込 剰余金 100 万ドル	その他の 積立金* 100 万ドル	利益剰余金 100 万ドル	合計 100 万ドル	非支配 持分 100 万ドル	資本合計 100 万ドル
2014 年 1 月 1 日現在	315	3,983	1,966	16,960	23,224	29	23,253
当期利益	-	-	-	1,233	1,233	2	1,235
その他の包括利益	-	-	-	(1,499)	(1,499)	(7)	(1,506)
その他の積立金への振替	-	-	40	(40)	-	-	-
所有者との取引：							
配当金	-	-	-	(3,532)	(3,532)	-	(3,532)
普通株式の発行	1	278	-	-	279	-	279
株式報酬	-	-	-	(93)	(93)	-	(93)
非支配持分から支払債務への振替	-	-	-	-	-	(5)	(5)
アストラ AB 非支配持分買収の微調整	-	-	15	-	15	-	15
純変動	1	278	55	(3,931)	(3,597)	(10)	(3,607)
2014 年 12 月 31 日現在	316	4,261	2,021	13,029	19,627	19	19,646

* その他の積立金には、資本償還準備金や合併準備金が含まれます。